

高齢社会の問題は 生活の足、介護保険

一般質問
12月4日
釘丸久子議員

12月議会的一般質問では、釘丸久子議員は高齢社会の問題、介護保険制度など質問しました。登壇質問と最初の市長答弁です。



釘丸久子議員 いま、国は「税と

社会保障の一体改革を進めていきます。今までのような変わらないのか、サービスは

か、負担は増えるのか、サービスはどうなるのかなど、市民も行政もしっかりと情報をつかみ、声をあげていくにはありませんか。それが「住民の福祉の増進」をはかる自治体の役割を充実させることになります。

安倍内閣が、医療・介護・保育・年金などあらゆる分野で、国民に負担増と給付削減を求める制度づくりの期限を定めたプログラム法案は、きわめて異例です。プログラム法案とは、消費税率を段階的に引き上げるのと同時並行的に行う社会保障改悪の計画を定めたものです。

消費税率が8%になる来年4月には70〜74歳の医療費窓口負担を2割に引き上げることや、介護保険での「要支援」を保険給付の対象からはずすこと、特別養護老人ホームの入所資格を「要介護3」以上に限定したりする改悪のメニューが並んでいます。国は、いかにしたら医療や介護の負担を減らせるかと、企んでいます。しかし、市町村などからの反

発にあり、国の思惑通り

今週の活動から



12月1日、文化会館で「野生動植物保全フォーラム」。中津川の絶滅寸前のカワラノギクを復活させるなど、10年にわたる活動の記録映画「流れ」に感動。漁協や森林組合、農家、小学校の報告もあり、生物多様性を強く印象付けるものでした。(上：釘丸久子議員)

12月1日(日)は荻野運動公園で「ドリームサッカー」。7日(土)には「ちびっこマラソン&駅伝競走大会」。元気いっぱいの選手宣誓に会場が和やかに。1・2年生は保護者と一緒に走ります。駅伝には57チームが参加しました。

(下：栗山香代子議員)



にはなかなか進みません。

厚生労働省は11月27日の社会保障審議会介護保険部会で、介護保険制度の見直し案を示しました。世論に押されて方針を見直す一方、「持続可能性の確保」を理由に手当たり次第の給付減と負担増を盛り込んでいます。

この見直し案は12月20日頃、部会で取りまとめをし、来年の通常国会に提出の予定です。現在はまだ「案」の段階ですが、もしこのまま実施されたら市民にどのような影響が出てくるのか、厚木市への影響は何かなど明らかにしたいと思っています。

高齢社会の問題は介護だけではありません。30年、40年前に開発された郊外型大型団地ではとりわけ高齢化が進んでおり、全国各地で買い物難民やバス路線の撤退など諸々の問題が噴出していきます。いち早く、それに対処し始めた自治体も現れています。

一人ひとりの市民が、高齢になっても長年住み慣れた地域で安心して暮らせるための方策について、生活の足の確保などについて伺います。

高齢社会に向けた施策について

生活の足の確保対策は何か

市長 公共交通の路線バスにおける対策として、高齢者バス割引乗車券の購入費の一部助成とともに、高齢者や障がい者の方が利用しやすいノンステップバスの導入支援や、新たなバス路線の開通などに

取り組んでいます。

また、森の里地区で運行されている乗合交通「森の里ぐるっと」の成果などを踏まえ、地域との協働による交通施策などに取り組んでいきたいと考えています。

介護保険事業について

在宅サービス・施設サービスの課題と対策は

市長 高齢化の進展に伴い、今後増加が見込まれる要介護認定者等の介護ニーズに的確に対応できるよう、サービス内容の充実や人材の確保などを図り、より良いサービスの提供に繋げていくことが重要であると認識しています。

現在、来年度に策定する第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基礎資料とするため、要介護者等に対する実態調査を行っていますので、その結果を踏まえ慎重に検討していきます。

要支援1・2について

国の方向と市の対応は

市長 要支援者に対する介護予防給付については、市町村が地域の実情に応じ、多様な主体による効果的かつ効率的にサービスの提供ができるよう、国において検討されています。

今後においても、国の制度改正について情報収集に努め、第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定において慎重に検討していきます。

12月議会今後の予定

12月20日(金) 議会運営委・本会議
時間は、午前9時から
ぜひ、傍聴においでください。